

alicセミナー受講にあたっての注意事項

- ◆本セミナーをお申込みいただいた方以外へのURLの転送はご遠慮ください。
 - ◆YouTubeの動画視聴に関する技術的なご質問にはお答えできかねますので、ご了承ください。
 - ◆録画、録音、資料印刷等の保存行為につきましてはご遠慮願います。
 - ◆ご登録いただいたアドレスは、alicセミナーの開催以外の目的で利用いたしません。
 - ◆セミナー後は、アンケートにご協力をお願いします。
- 下記URLのアンケートフォームからご回答ください。

<https://www.alic.go.jp/consumer/foods/event.html>

独立行政法人農畜産業振興機構

豪州における 近年の飼料穀物需給動向と 見通し



2024年3月（独）農畜産業振興機構
「ALICセミナー」

（独）日本貿易振興機構（ジェトロ）
シドニー事務所
赤松 大暢

記載内容の転載はお断りいたします

目次

1. 豪州の穀物をめぐる一般情勢
2. 大麦および小麦の需給動向
3. ウクライナ情勢が豪州穀物産業に与える影響
4. 今後の見通し

目次

1. 豪州の穀物をめぐる一般情勢
2. 大麦および小麦の需給動向
3. ウクライナ情勢が豪州穀物産業に与える影響
4. 今後の見通し

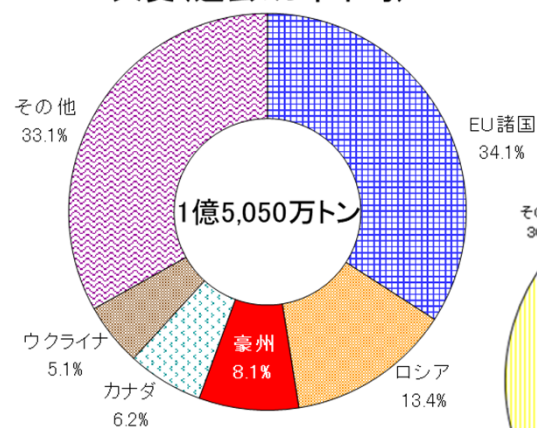
豪州産穀物の世界的な位置付け

- 世界の穀物生産量のうち、豪州の大麦は全体の約8%、小麦は約4%を占める主要生産国。
- また、世界の穀物輸出量のうち、豪州の大麦は全体の約21%、小麦は約11%を占める主要輸出国。

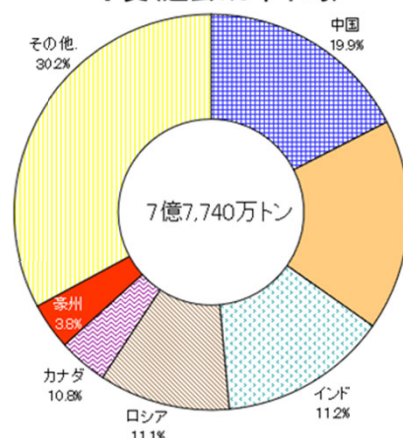
生産量

輸出量

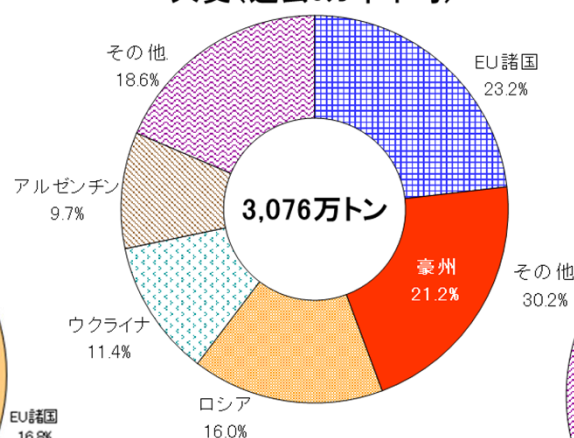
大麦（過去5カ年平均）



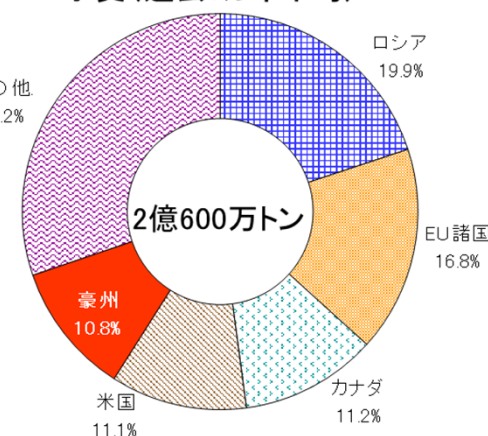
小麦（過去5カ年平均）



大麦（過去5カ年平均）



小麦（過去5カ年平均）

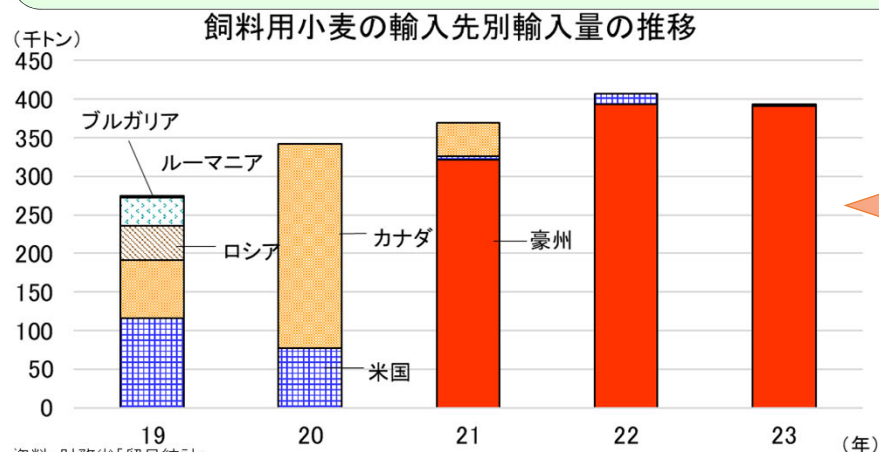


資料：USDA Foreign Agricultural Service「Grain: World Markets and Trade」

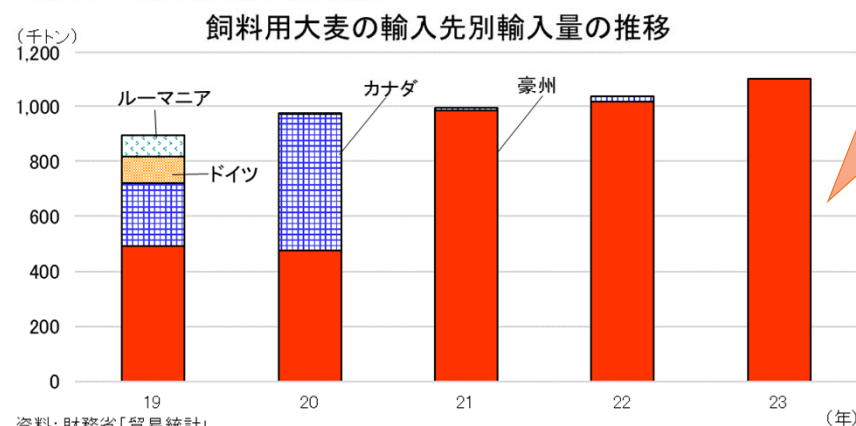
注：2019/20年度（6月から翌7月）から23/24年度の5年間平均。なお、23/24年度は、24年2月に公表された予測値。

日本の輸入飼料穀物における豪州産

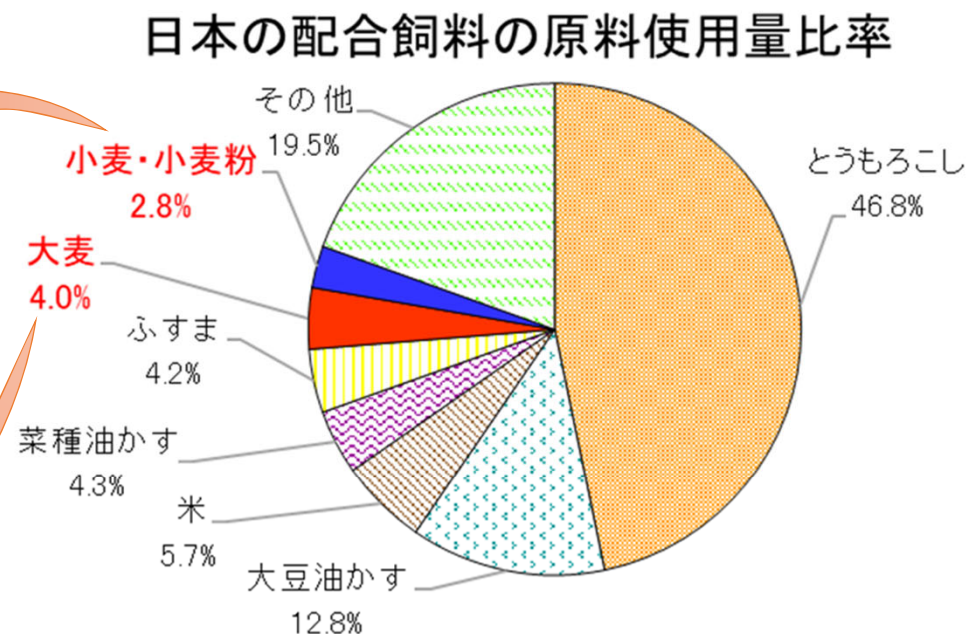
- ・ 日本の配合飼料約2,400万トンのうち 大麦は4%、小麦は3%。
- ・ 大麦と小麦の輸入は、豪州産が大宗を占める。



資料: 財務省「貿易統計」
注: HSコード100199016と100199096の合計値。



資料: 財務省「貿易統計」
注: HSコード100390011と100390091の合計値。

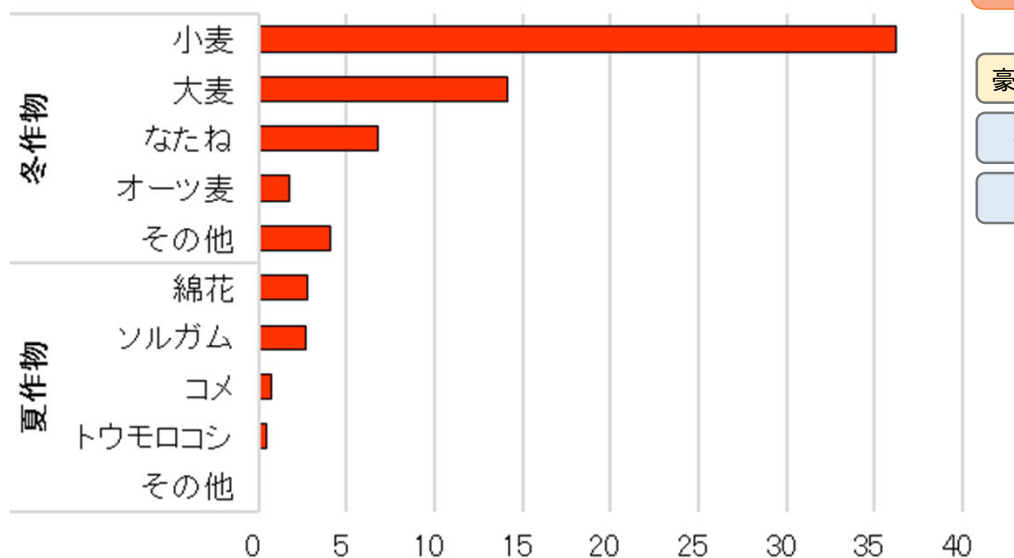


資料: 農林水産省「飼料月報」
注: 2022年度(4月～翌3月)のデータ。

豪州穀物の生産体系

- ・ 大麦や小麦など、主に3～6月に作付けし、10月～翌1月に収穫を行う冬作物と、トウモロコシやソルガムなど、10月～翌1月に作付けし、3～6月に収穫を行う夏作物に大別。
- ・ 大麦は全体の2割、小麦は5割を超える、主要生産穀物。

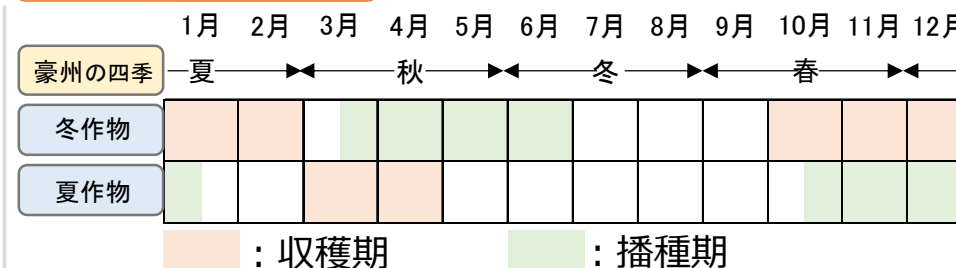
主要穀物の生産量(2021/22年度)



資料: 豪州農業資源経済科学局(ABARES)

注: 冬作物のその他には、ひよこ豆やソラマメ、エンドウ豆類などが含まれ、夏作物のその他には、大豆やヒマワリなどが含まれる。

栽培暦



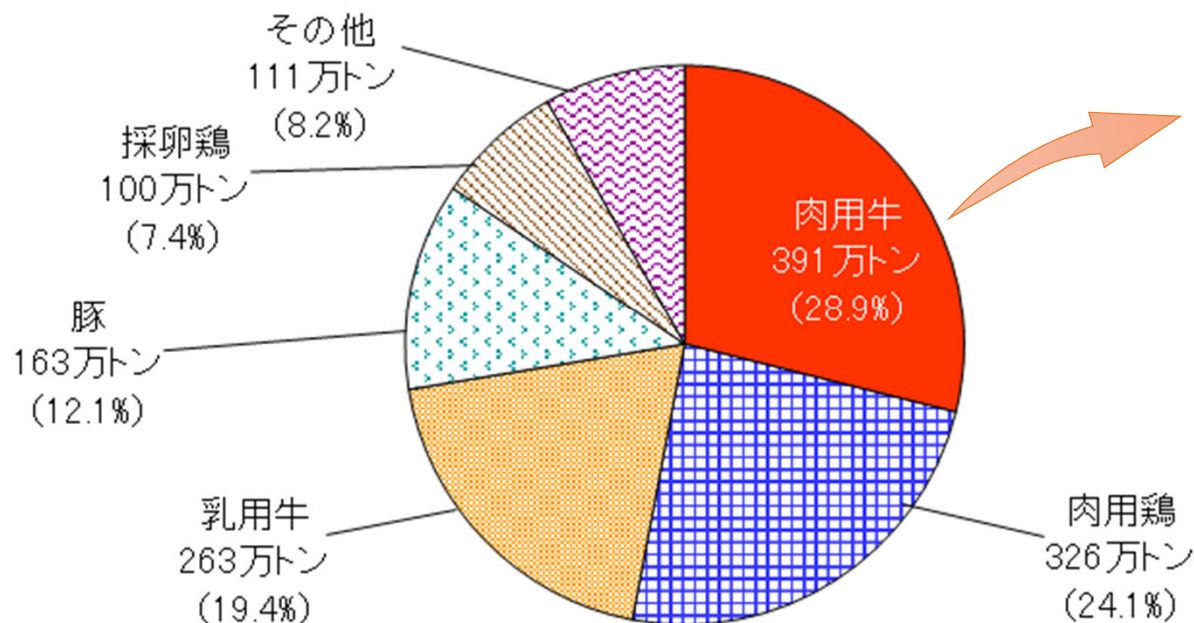
- ・ 穀物生産地域では、豪州の冬に穀物の生育に必要な降雨量と適温になる。
- ・ 夏は乾燥・高温となることから、穀物の生育にとって厳しい環境となる（一部でかんがい施設を整備）。

冬作物の生産量が多い

飼料用穀物の国内消費

- ・ 肉用牛（全体の29%）と肉用鶏（同24%）で全体の半数以上。
- ・ 最も多く利用されている飼料穀物は大麦と小麦。
- ・ 小麦の栄養価はトウモロコシに類似しており、肉用牛では小麦の給与が脂肪交雑に効果をもたらす。

畜種別飼料穀物利用量の割合（2017/18年度）



主原料は大麦と小麦

小麦の栄養価は
トウモロコシに類似

牛肉の脂肪交雑に効果



資料: Australian Feed Report 2018

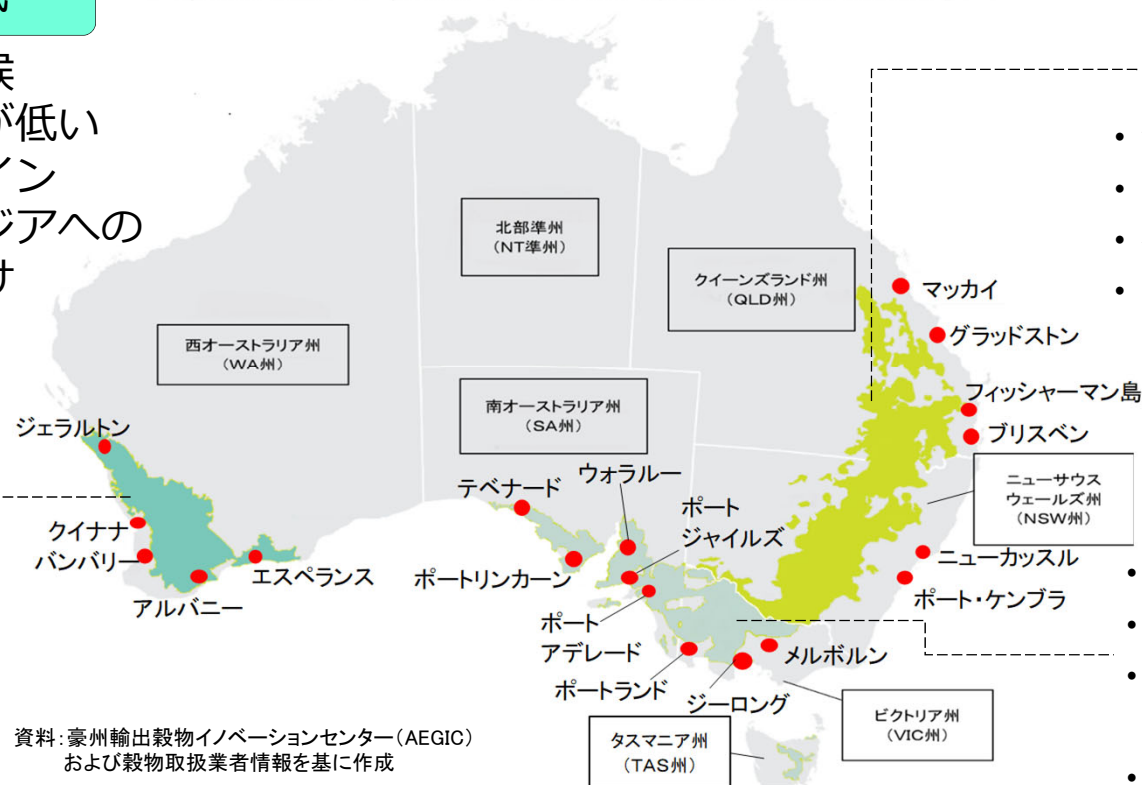
主要な穀物生産地域

- ・ 豪州の大麦および小麦の生産は、主に西部および南東部の地域。
- ・ 主にバラ積みトラックにより、国内向け加工施設や約20カ所の輸出向け港湾施設に運搬。

西部地域

- ・ 地中海性気候
- ・ 土壌肥沃度が低い
- ・ 冬作物がメイン
- ・ 主に東南アジアへの輸出市場向け

大麦および小麦の生産地分布状況と主な港湾図



北部地域

- ・ 熱帯・亜熱帯・温帯気候
- ・ 土壌肥沃度が高い
- ・ 冬作物および夏作物
- ・ 国内および輸出市場向け

南部地域

- ・ 温帯気候
- ・ 土壌肥沃度が低い
- ・ 冬作物（一部かんがい農業による夏作物）
- ・ 国内市場向け

資料：豪州輸出穀物イノベーションセンター（AEGIC）
および穀物取扱業者情報を基に作成

穀物生産に影響を及ぼす気象現象

- ・主に秋から春にかけ、北部、東部、南部を中心に干ばつを引き起こす「エルニーニョ現象」、主に秋から初夏にかけ、同地域を中心に豪雨や低温を引き起こす「ラニーニャ現象」、主に秋から初夏にかけ、西部と南部を中心に干ばつを引き起こす「インド洋ダイポール現象」が存在。

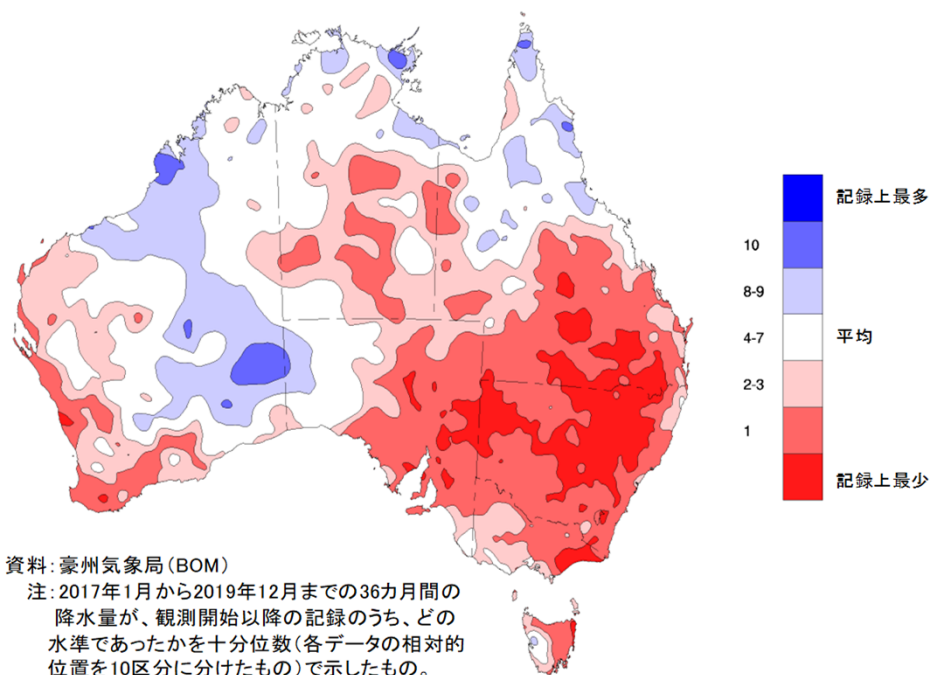
発生地域	名称	穀物生産への影響	対象となる主な地域	過去10年間 (2014年以降) における発生年
太平洋	エルニーニョ現象	冬作物の播種期から収穫期にかけ、降雨量が減少することから、生産量が減少。	北部、東部、南部	2015、16年
	ラニーニャ現象	冬作物の播種期から収穫期に降雨量が増加することから、生産量が増加。他方、収穫期の多雨による穀物の品質低下を招く恐れ。		2020、21、22年
インド洋	インド洋ダイポール現象(IOD)	・正のIOD 冬作物の播種期から収穫期に降雨量が減少するため、生産量が減少。 ・負のIOD 冬作物の播種期から収穫期に豪雨をもたらすため、冬作物の生産量が増加。	西部、南部	・正のIOD 2015、19年 ・負のIOD 2014、16、22年

資料: 豪州気象局(BOM)

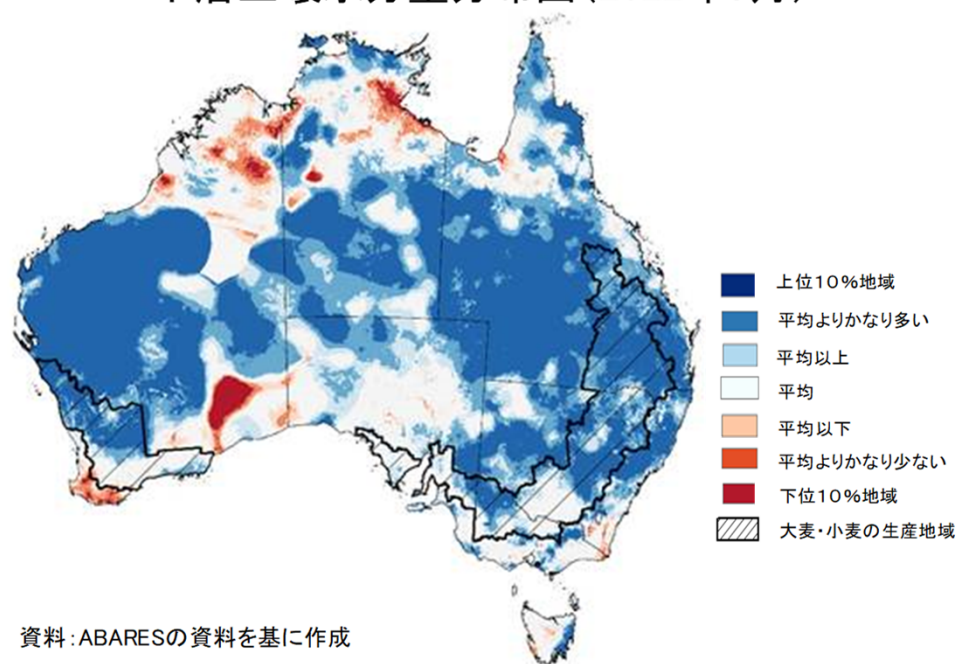
干ばつと降雨

- ・ 2018～19年の大規模な干ばつにより、穀物生産量は減少。
- ・ 近年はラニーニャ現象が2020年から3年連続で発生したため、多雨により土壌水分量が増し、穀物生産に好影響。

干ばつ時における降雨不足の状況



下層土壌水分量分布図(2022年9月)



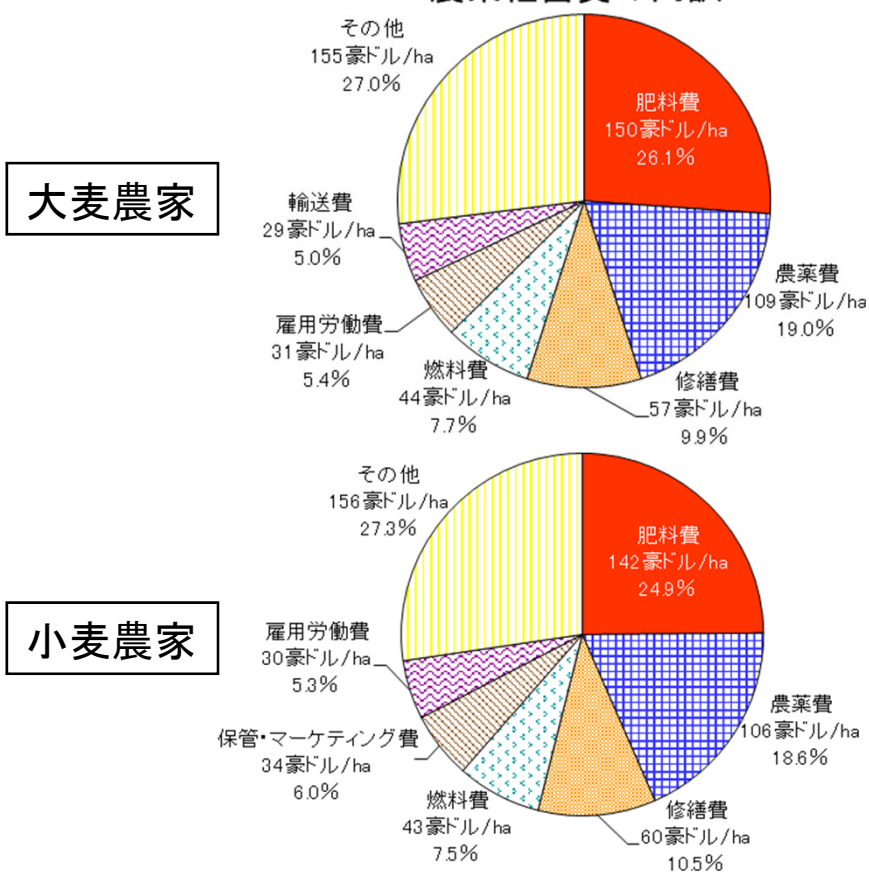
冬作物の育成期における
土壌水分量が多い

豊作

穀物生産農家の経営実態

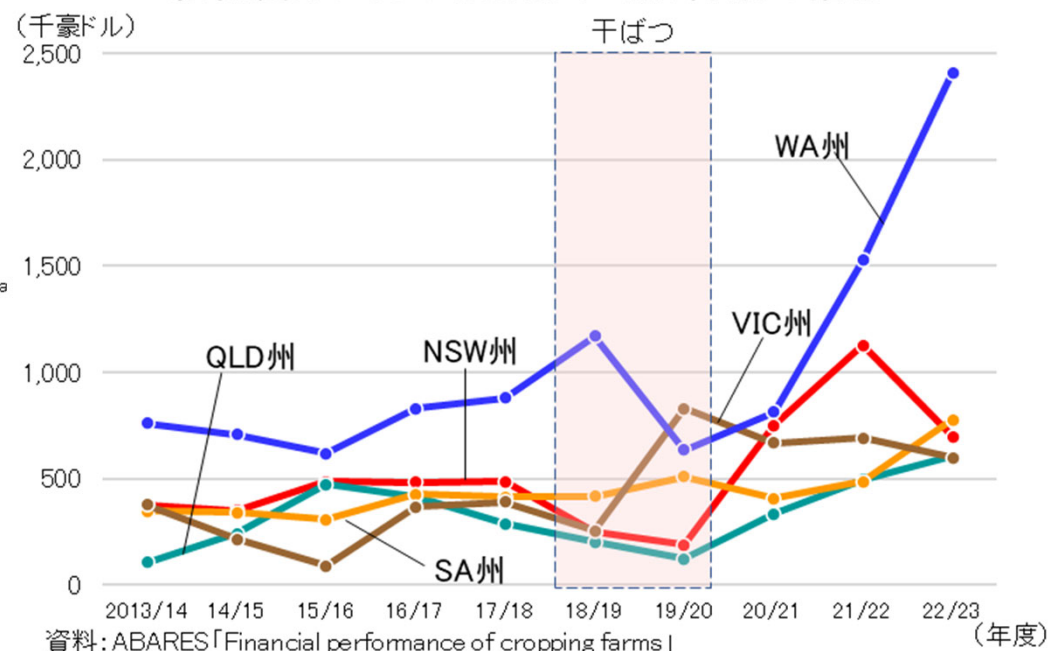
- ・ 農業経営費のうち、肥料費が最も大きなシェアを占める。
- ・ 近年の豊作を受け、特にWA州で農家所得が増加。

農業経営費の内訳



資料: ABARES「Financial performance of cropping farms」(2021/22年度)

穀物農家における州別平均所得額の推移



豊作による利益余剰金により、穀物関連企業は輸送能力向上に向けた多額投資を実施

穀物関係の主要規則

- ・ 公正な取引を促進する基準のほか、飼料用として流通する際の安全性などを担保するための諸規則が存在。

基準名	運営組織	概要
穀物取引基準	グレイン・トレード・オーストラリア (GTA)	公正な穀物取引のための飼料用を含む大麦や小麦など各品種と品質の定義、評価手法などに関する穀物の取引基準。
FeedSafe	豪州飼料製造業者協議会 (SFMCA)	飼料の製造と使用における品質保証とリスク軽減のためのHACCPベースの認定プログラムにより、製造業者に対する飼料製造、輸送、検査などに関する基準。
飼料調整規則	各州政府	特定のホルモン剤や抗生物質、豪州農薬獣医薬局 (APVMA) により登録されていない添加物、肉骨粉などの動物性飼料が含まれておらず、鉛や水銀などの汚染物質が基準値以下であることなど、流通が可能な飼料の規定や表示などに関する基準。
家畜生産保証	インテグリティ・システムズ	肉骨粉などの動物性タンパク質や化学残留物質が含まれていないことなどの飼料に関する証明などを含む。豪州の赤身肉 (牛肉・羊肉) 業界の農場保証プログラム。

資料：関係団体、州政府の公表情報を基に作成

穀物生産農家への支援策

- ・ 価格や所得維持、生産調整などに関する政策支援はない。
- ・ 干ばつ対策支援のほか、課徴金制度による研究開発やバイオセキュリティ対策などにより、農家を側面的に支援。

災害準備基金

干ばつなどに関連する
気象情報の配信

被災時の地域
コミュニティネット
ワーク構築のための助成

資金繰りなどの経営管理
に関するカウンセリング
サービス

農家サポート

スキル開発支援や
経営コンサルの助言を
得るための資金支援など

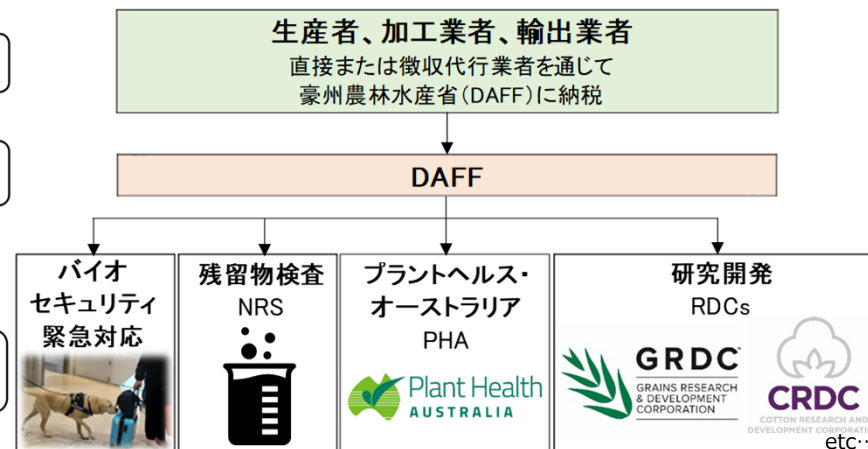
課徴金制度

1989年以降
法制化により
支払いが義務

豪州農業資源
経済科学局
(ABARES)

徴収額 1 豪ドル
に対し、7.82豪
ドルの収益を
農家に還元

課徴金の流れ



主要穀物の課徴金徴収額

品目	課徴金 導入年	用途				合計
		バイオ セキュリティ 緊急対応費	残留物等 検査費	プラントヘルス・ オーストラリア の活動費	研究開発費	
大麦	1992年	販売額の 0.005%	販売額の 0.015%	販売額の 0.01%	販売額の 0.99%	販売額の 1.020%
小麦	1957年	販売額の 0.005%	販売額の 0.015%	販売額の 0.01%	販売額の 0.99%	販売額の 1.020%
飼料	2016年	-	-	-	1トン当たり 50豪セント	1トン当たり 50豪セント

資料: 豪州農林水産省 (DAFF)

注: 飼料には乾草を含むが、サイレージは含まれない。

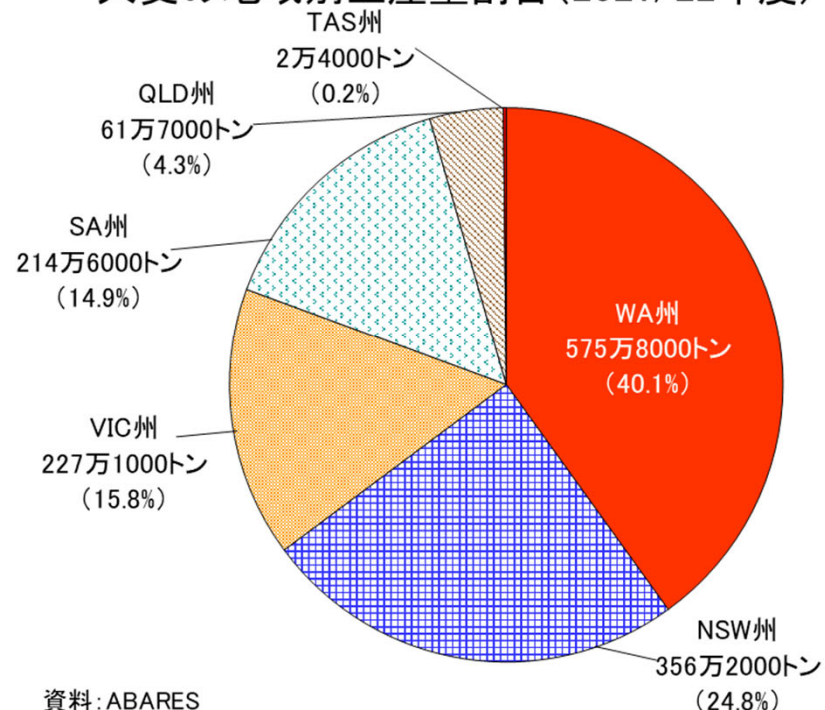
目次

1. 豪州の穀物をめぐる一般情勢
2. 大麦および小麦の需給動向
3. ウクライナ情勢が豪州穀物産業に与える影響
4. 今後の見通し

大麦の生産動向

- ・西オーストラリア（WA）州が最も多く全体の40.1%。
ニューサウスウェールズ（NSW）州と2州で全体の7割弱。
- ・生産量は、降雨量に起因する単収と作付面積に連動。
- ・2020/21年度から3年間は、降雨に恵まれて豊作。

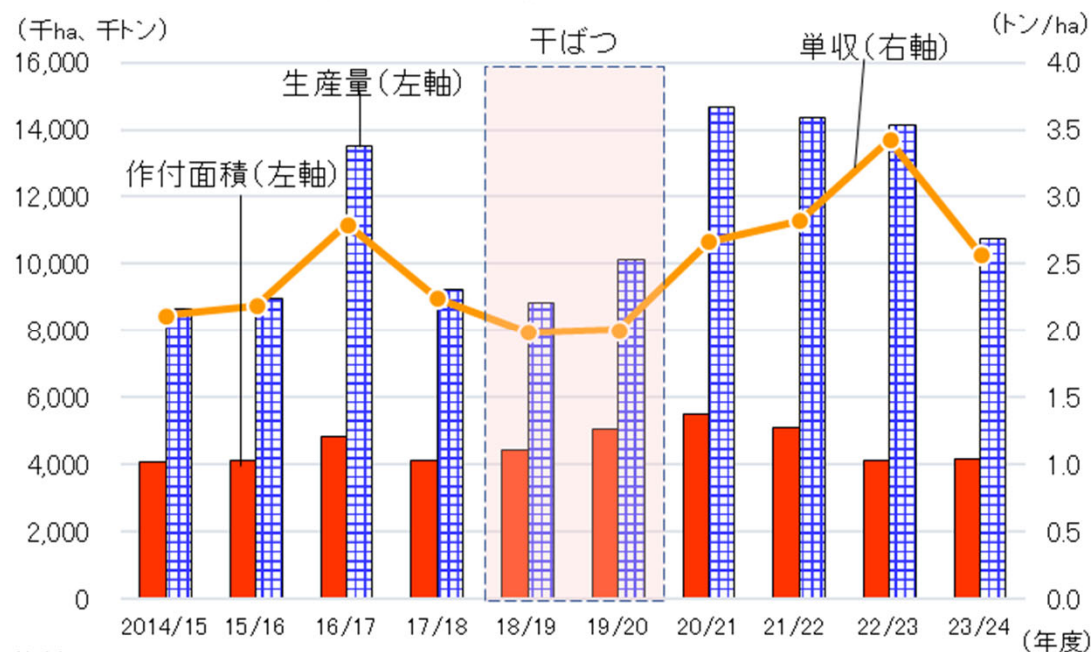
大麦の地域別生産量割合(2021/22年度)



資料: ABARES

JETRO

大麦の作付面積と生産量の推移

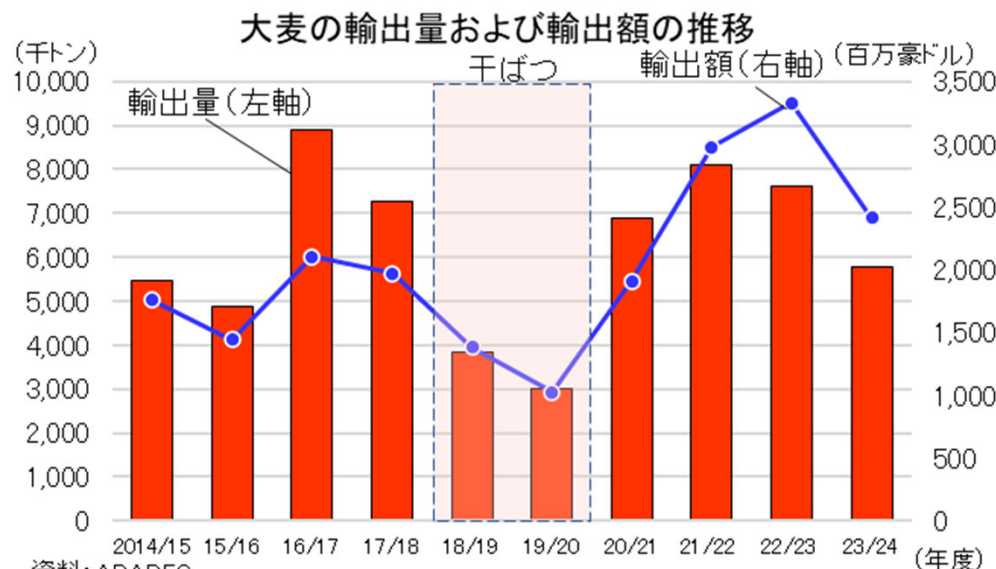


資料: ABARES

注: 2022/23年度は概算値、23/24年度は予測値。

大麦の輸出動向

- ・国内供給を優先するため、干ばつ時の輸出量は減少。
- ・近年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により国内消費量が減少したため、生産量の過半が輸出向け。
- ・豪州産は比較的水分含有量が少なく、保管中のカビの発生が少ないため、日本の梅雨時期の輸入に適している。



豪州産大麦の需給表

年度	2016/17	17/18	18/19	19/20	20/21	21/22
国内生産量	13,506	9,254	8,819	10,127	14,649	13,906
国内消費量	3,008	4,759	5,348	5,241	4,596	4,689
うち食用と飼料用	2,822	4,560	5,166	5,042	4,400	4,500
うち種子用	186	200	182	199	196	189
輸出量	9,190	5,725	3,687	3,324	8,331	7,833

資料: ABARES「Agricultural commodity statistics 2022」

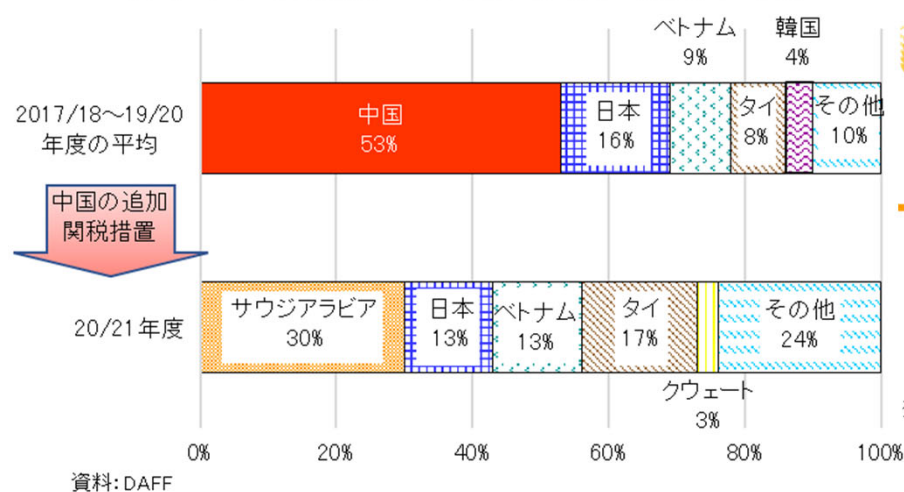
注1: 豪州大麦の在庫量に関する統計データはない。

注2: 年度は大麦の収穫年度で、11月から翌10月。

対中大麦輸出停止とその後の経緯

- 2020年5月、中国は豪州産大麦に対して80.5%の追加関税を課したため、以降中国へ的大麦輸出は事実上停止。
- 穀物業界は年間5～7億豪ドルの輸出利益を損失。サウジアラビアなどの新規輸出先を開拓。
- 22年5月の選挙による政権交代後、両国の関係改善により、23年8月に関税が撤廃。

中国の追加関税措置による豪州大麦の輸出先の変化



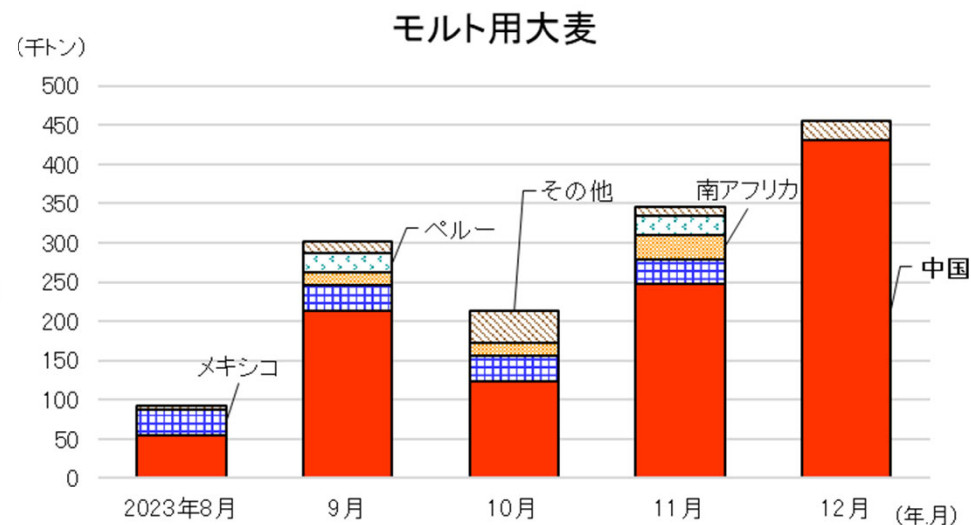
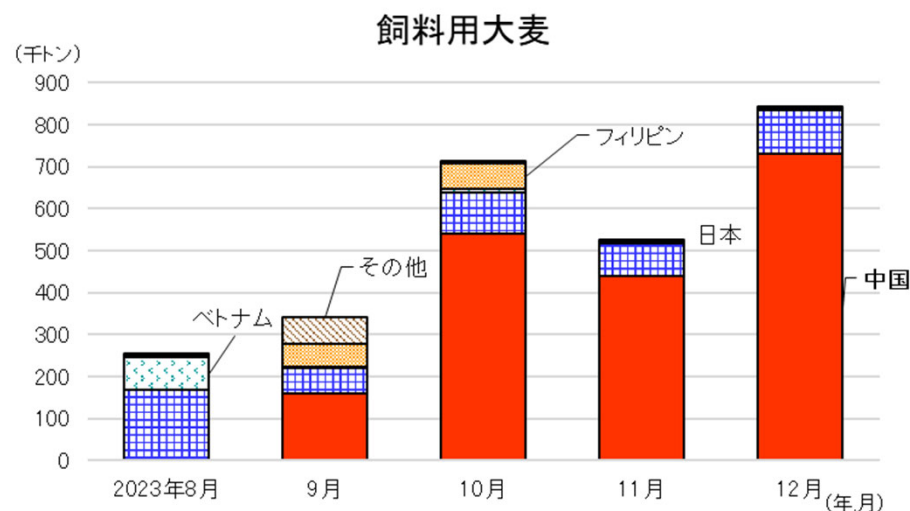
豪州産大麦の対中輸出をめぐる経緯



関税撤廃後の対中大麦輸出

- ・ 2023年9月以降、中国向け輸出が急増し、全体の約9割を占めている。
- ・ 1トン当たり約38～40豪ドルで中国向けに輸出。
- ・ 豪穀物業界は、中国の高い購買力と需要、豪州からの輸送距離といった地理的要因により、今後も中国は主要輸出先になるとの見解。他方で、中国集中を避けるべきとの意見も。

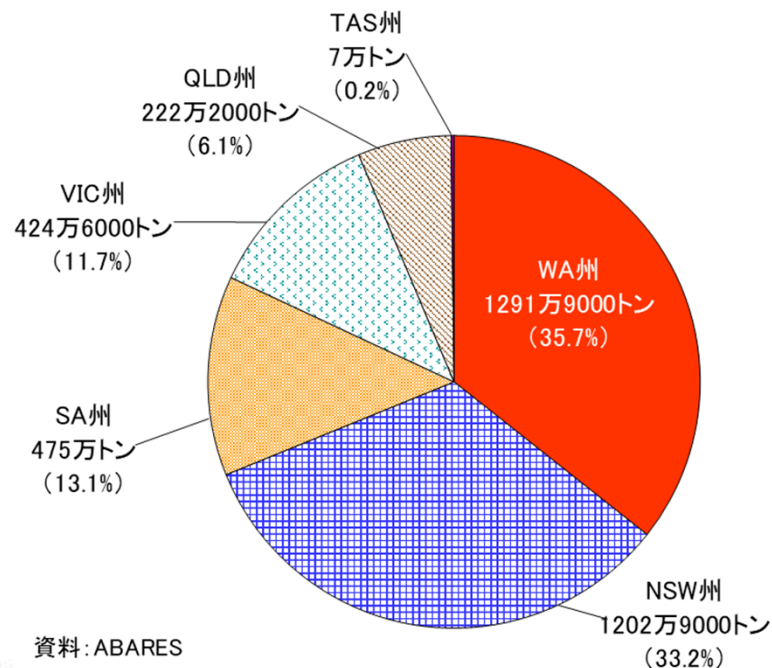
最近の豪州産大麦の輸出動向



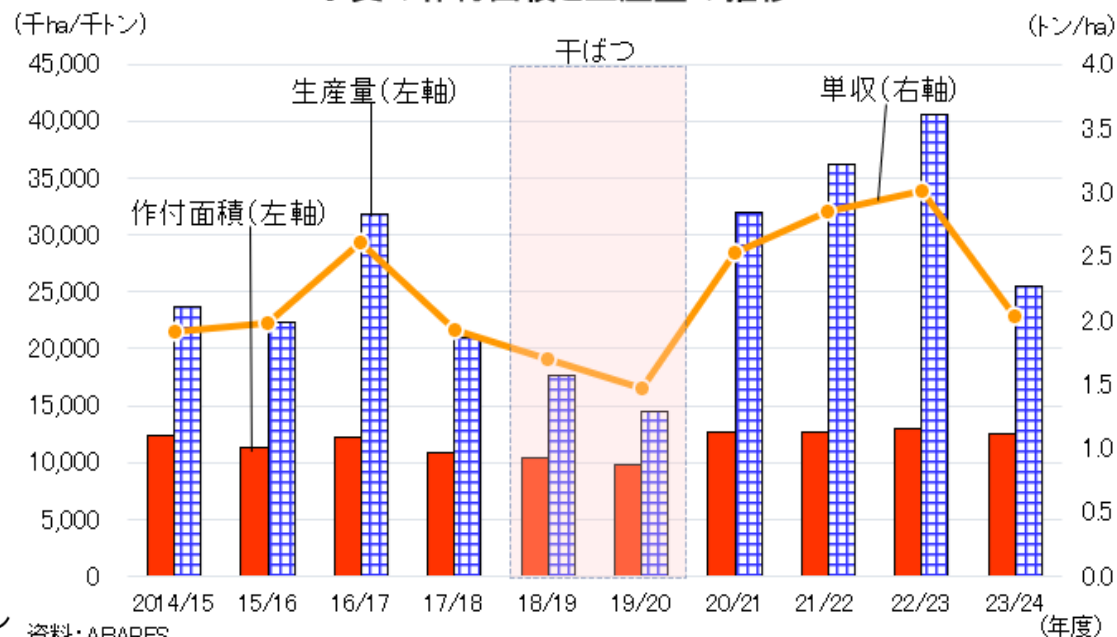
小麦の生産動向

- WA州が最も多く全体の35.7%。NSW州と2州で全体の7割弱。
- 生産量は、降雨量に起因する単収と作付面積に連動。
- 2020/21年度から3年間は、作付面積が微増で推移しつつも、降雨により単収が増加したことで生産量が増加。

小麦の地域別生産割合(2021/22年度)



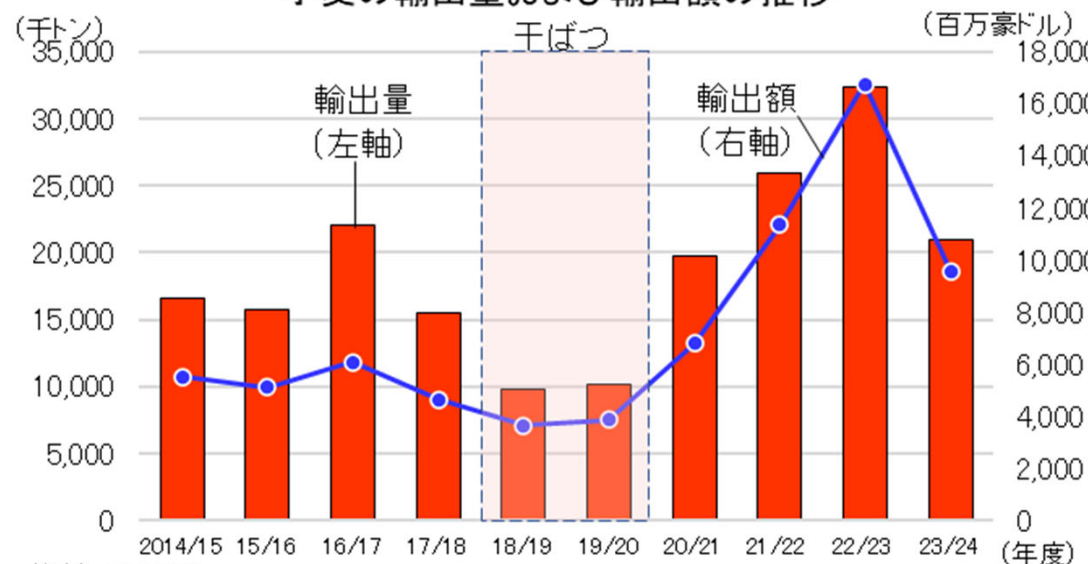
小麦の作付面積と生産量の推移



小麦の輸出動向

- ・ 干ばつ期からの生産量回復に伴い、輸出量および輸出額は2022/23年度に過去最高を記録する見込み。
- ・ 近年はCOVID-19の影響により国内消費量が減少したため、21/22年度は生産量の7割以上が輸出向け。
- ・ 飼料用のほか、アジア圏の麺類製造に適した豪州産小麦に需要。

小麦の輸出量および輸出額の推移



資料: ABARES

注1: 22/23年度以降は予測値。

注2: 輸出額はFOB価格。

豪州小麦の需給表

年度	2016/17	17/18	18/19	19/20	20/21	21/22
期首在庫	4,551	6,053	4,541	4,411	1,789	1,736
生産量	31,819	20,941	17,598	14,480	31,923	36,347
計	36,369	26,994	22,138	18,891	33,711	38,083
国内消費量	7,739	8,697	9,107	8,702	8,312	8,538
うち製粉用	2,843	2,877	2,914	2,970	2,960	2,988
うち飼料用	4,350	5,300	5,700	5,100	4,700	4,900
うち種子用	546	520	493	632	652	650
輸出	22,605	13,790	8,961	9,108	23,697	27,505
輸入	28	33	341	708	34	33
期末在庫	6,053	4,541	4,411	1,789	1,736	2,073

資料: ABARES「Agricultural commodity statistics 2022」

注: 年度は小麦の収穫年度で、10月から翌9月。

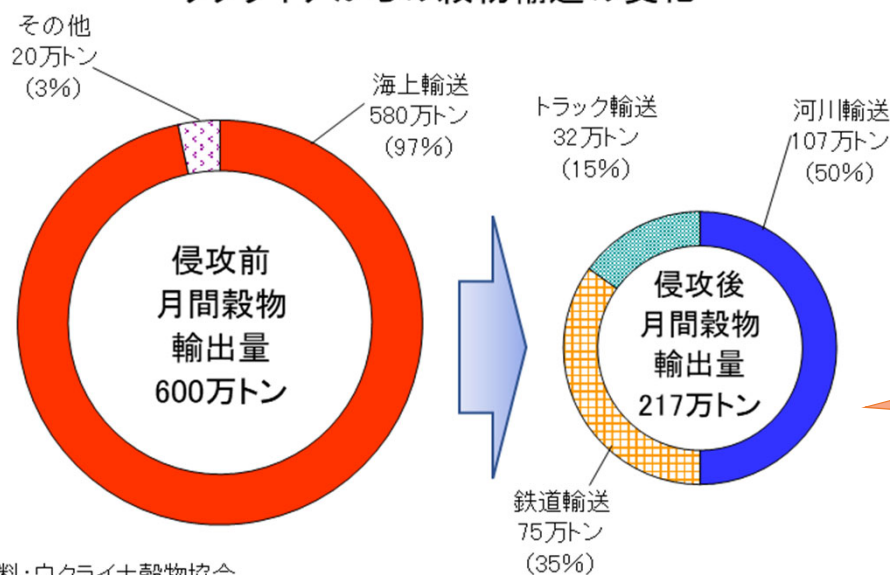
目次

1. 豪州の穀物をめぐる一般情勢
2. 大麦および小麦の需給動向
3. ウクライナ情勢が豪州穀物産業に与える影響
4. 今後の見通し

ウクライナの穀物輸出動向の変化

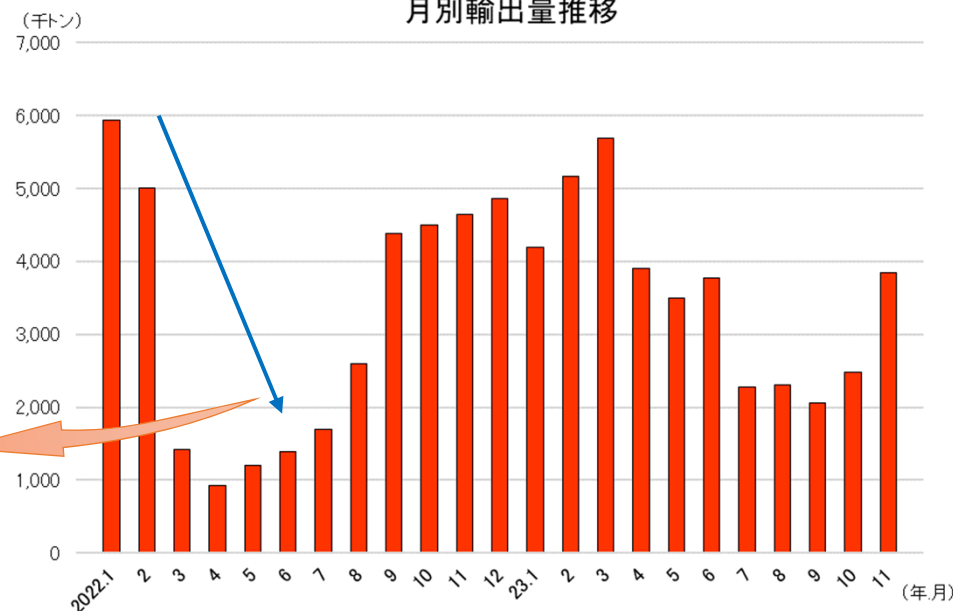
- ・ 2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻以降、ウクライナの穀物^{ほじょう}圃場や倉庫、農業機械、港湾施設などが被害。
- ・ 同国から黒海を経由した穀物輸送が制限されたため、輸出能力が大幅に低下。河川や鉄道による代替輸送を実施。

ロシアによるウクライナ侵攻前後の
ウクライナからの穀物輸送の変化



資料: ウクライナ穀物協会
注: 侵攻後は2022年6月のデータ。

ウクライナ産穀物(大麦、小麦、トウモロコシ)の
月別輸出量推移

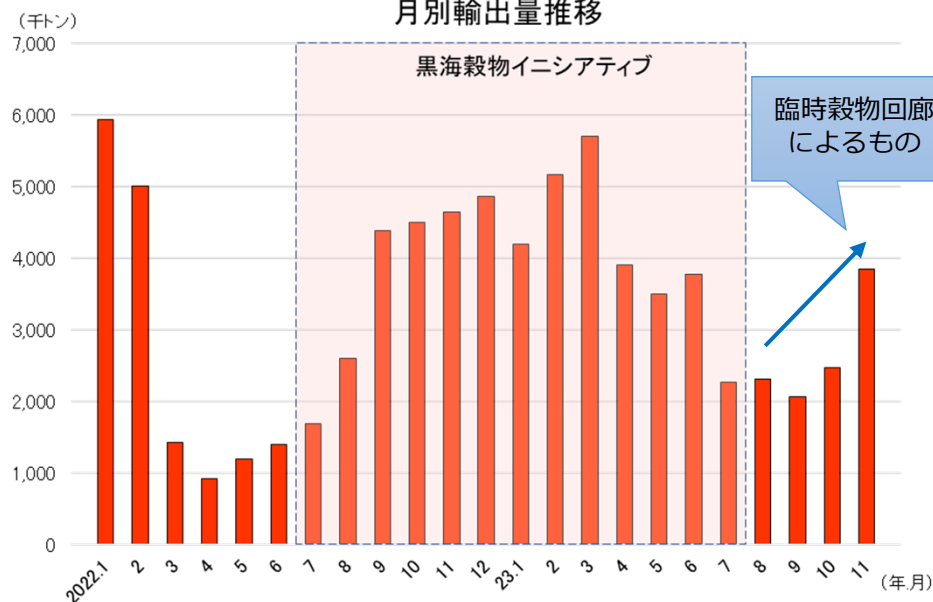


資料: UN Comtrade
注: HSコードは、大麦が1003、小麦が1001、トウモロコシが1005で抽出。

黒海穀物イニシアティブの影響

- ・ 黒海穀物イニシアティブにより、船舶による穀物輸出が再開。
- ・ 同署名のロシア離脱後、臨時穀物回廊によってウクライナからの輸出が回復基調。
- ・ ロシアによるウクライナ侵攻時は、世界的な穀物供給不安から国際相場は一時急騰も、黒海穀物イニシアティブ以降下落基調。

ウクライナ産穀物（大麦、小麦、トウモロコシ）の
月別輸出量推移



資料: UN Comtrade

注1: HSコードは、大麦が1003、小麦が1001、トウモロコシが1005で抽出。

注2: 黒海穀物イニシアティブの継続・実施期間は、2022年7月22日から23年7月16日まで。

大麦および小麦の国際相場指数の推移



資料: 国際穀物理事会(IGC)

注: 2000年1月1日を100とした時の指数値。

参考

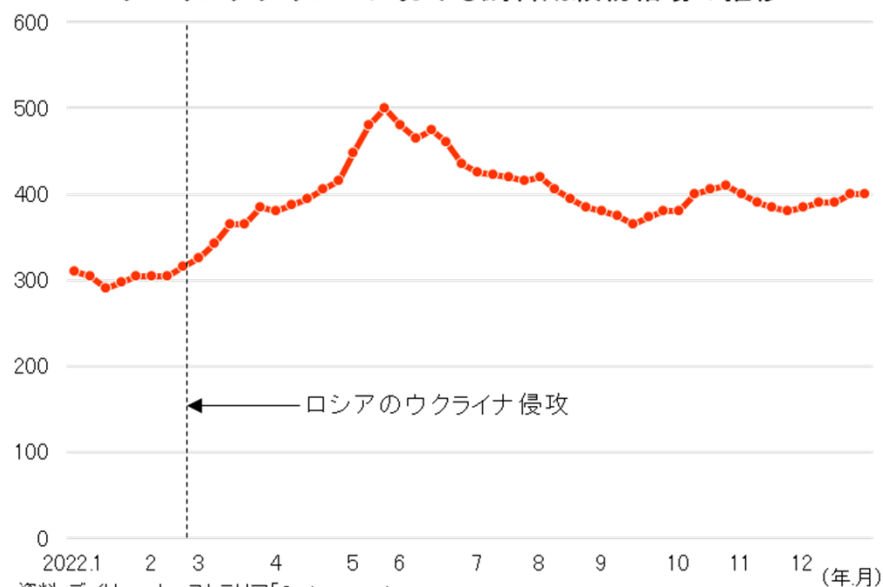
(独) 農畜産業振興機構 海外情報「ウクライナ産穀物の輸出、増加基調」

https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003703.html

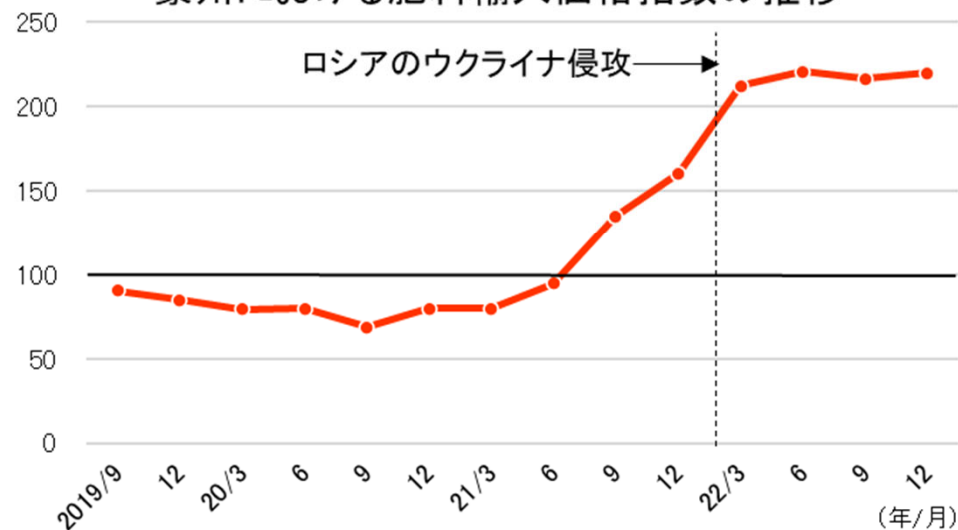
豪州穀物産業への影響

- ・ 国際相場上昇を背景に、豪州産穀物に対する需要が高まり、国内飼料価格も上昇。
- ・ 2020/21年度以降の豊作による穀物在庫を、高価で海外に輸出。
- ・ 他方、輸出に必要なサプライチェーンのぜい弱さが露呈。
- ・ また、豪州は肥料のほとんどを海外に依存しており、同輸入価格も上昇。

ダーリングダウズにおける飼料用穀物相場の推移



豪州における肥料輸入価格指数の推移



資料: ABS

注: 2011/12年度における平均価格を100とした時の指数値。

目次

1. 豪州の穀物をめぐる一般情勢
2. 大麦および小麦の需給動向
3. ウクライナ情勢が豪州穀物産業に与える影響
4. 今後の見通し

気象の見通し

- ・エルニーニョ現象は、豪州の秋口（3月）まで継続した後に終息の見込み。
- ・最新（2024年4月）の土壌水分量の見通しでは、穀物生産地域はおおむね平年並みの予想。今後冬作物の育成・出穂期である9月頃までの降雨量および土壌水分量に注視が必要。

豪州気象局（BOM）

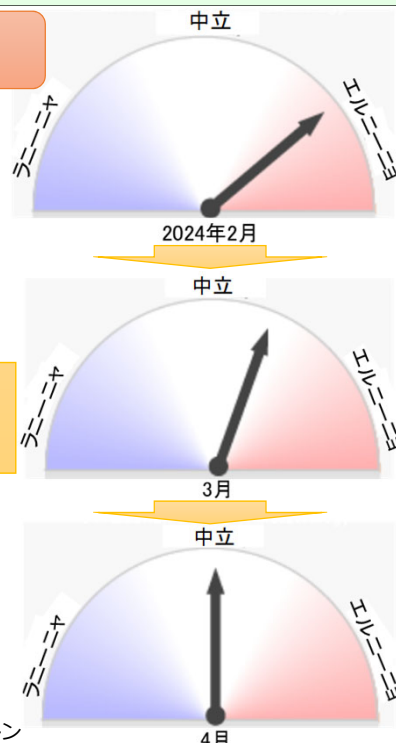
エルニーニョ・
南方振動
(ENSO)
2024年秋には
中立に戻る予想

2024年秋の土壌水分量は
おおむね平年並み

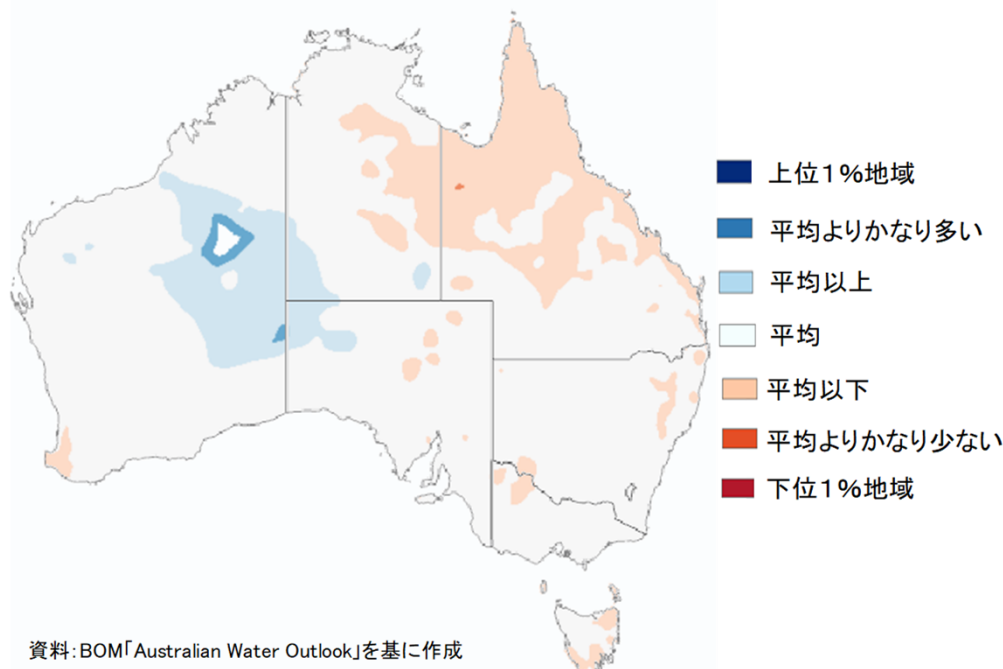


BOM本庁ビル@メルボルン

JETRO



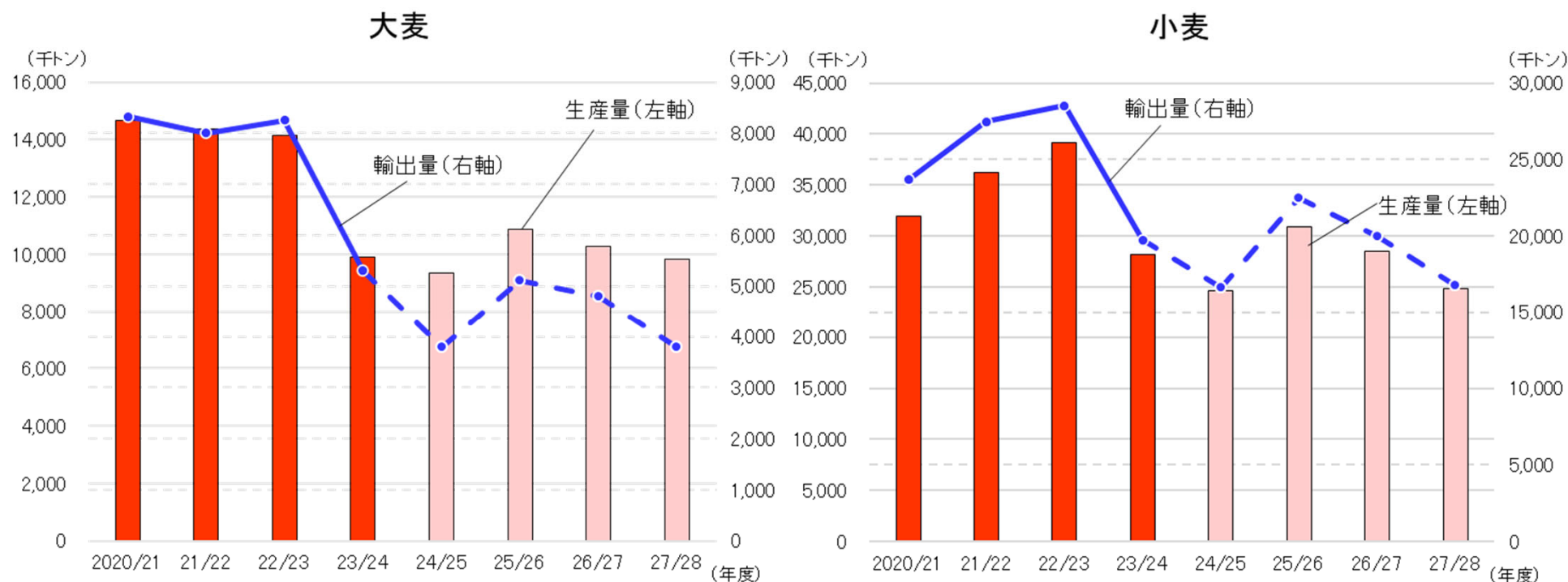
土壌水分量の見通し(2024年4月)



資料: BOM「Australian Water Outlook」を基に作成

生産量と輸出量の見通し

- ・今後の乾燥予報を背景に、2024/25年度まで生産量、輸出量ともに減少の見込み。
- ・豪州の人口増が見込まれる中、国内需要も製粉用、飼料用ともに増加する見込み。

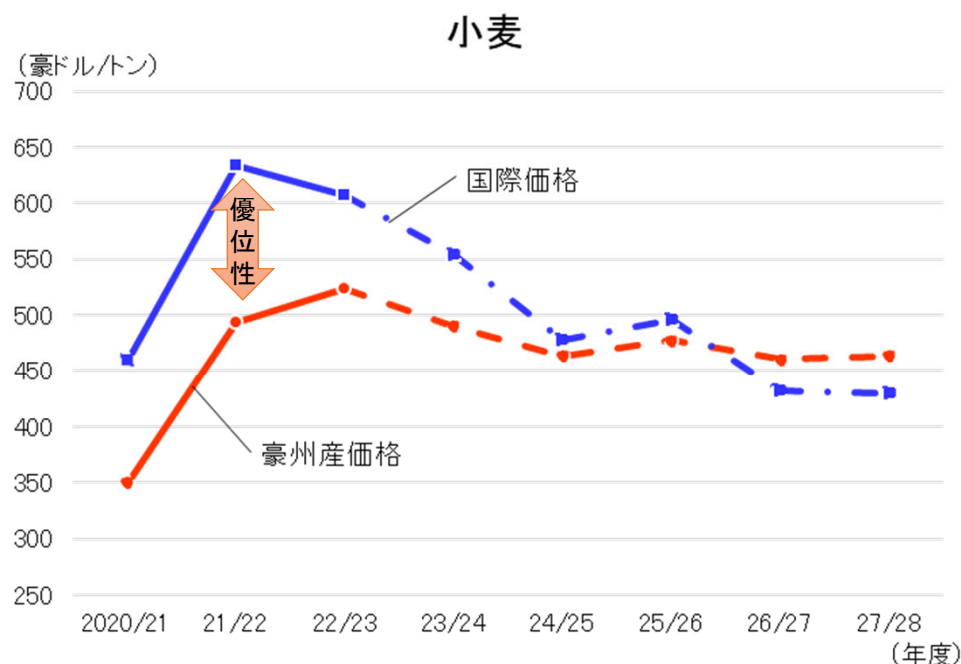
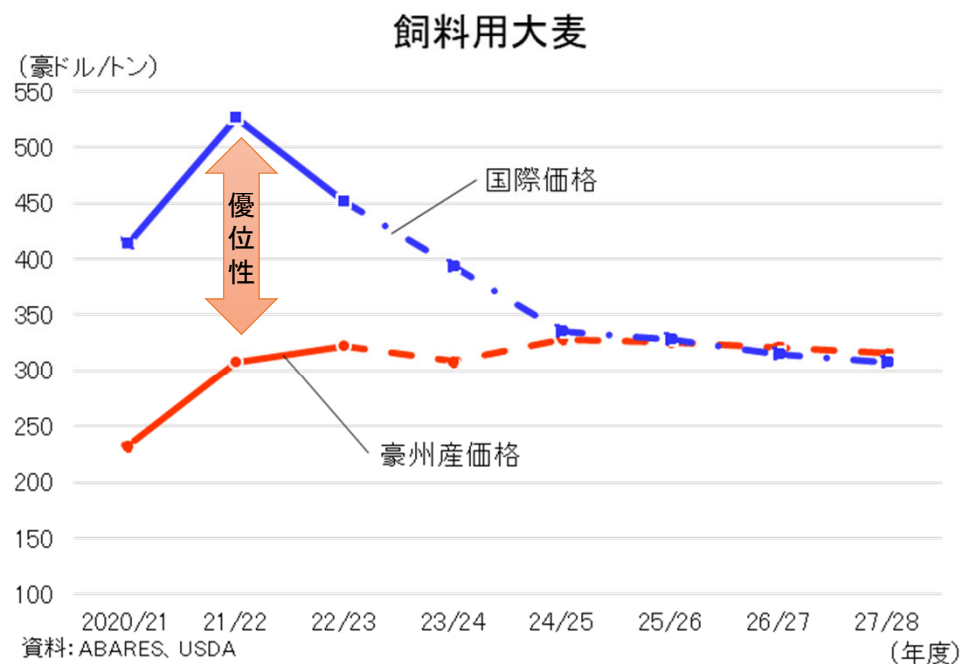


資料: ABARES

注: 22/23~23/24年度は概算値。24/25年度以降は予測値。

内外価格差の見通し

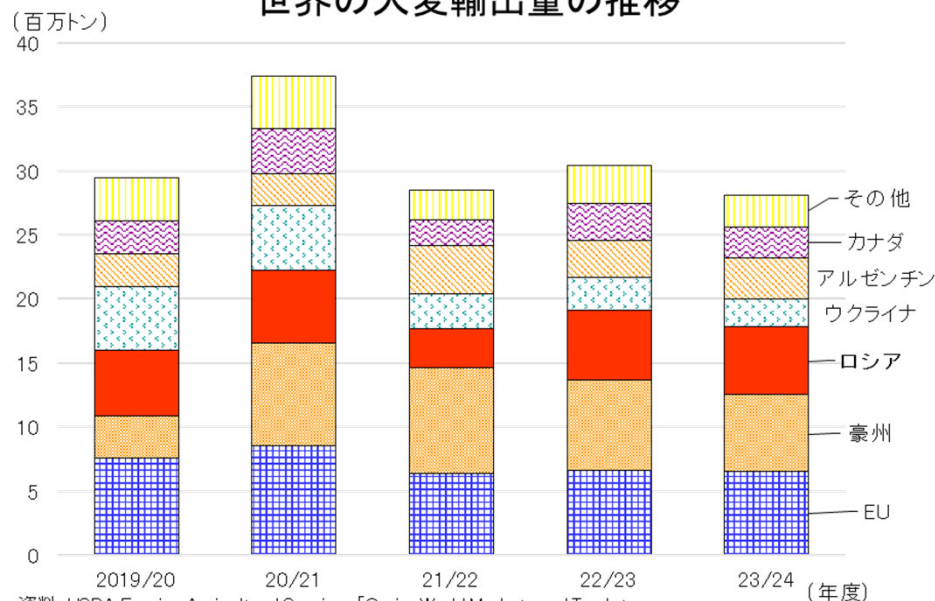
- ・ 大麦、小麦ともに、世界的な需要を上回る生産見込みから、国際価格は下落傾向。
- ・ 近年までの豪州の豊作と世界情勢を反映した豪州産穀物の価格優位性は、今後縮小の見込み。



ロシア産穀物の存在感

- ・ロシアは世界有数の穀物輸出国であり、2022/23年度の小麦輸出量は、同国の豊作を背景に過去最大を記録。輸出先は中国、トルコ、エジプトなど。
- ・潤沢な供給量や為替などにより、今後もロシア産穀物は世界市場で存在感を増す見込み。

世界の大麦輸出量の推移

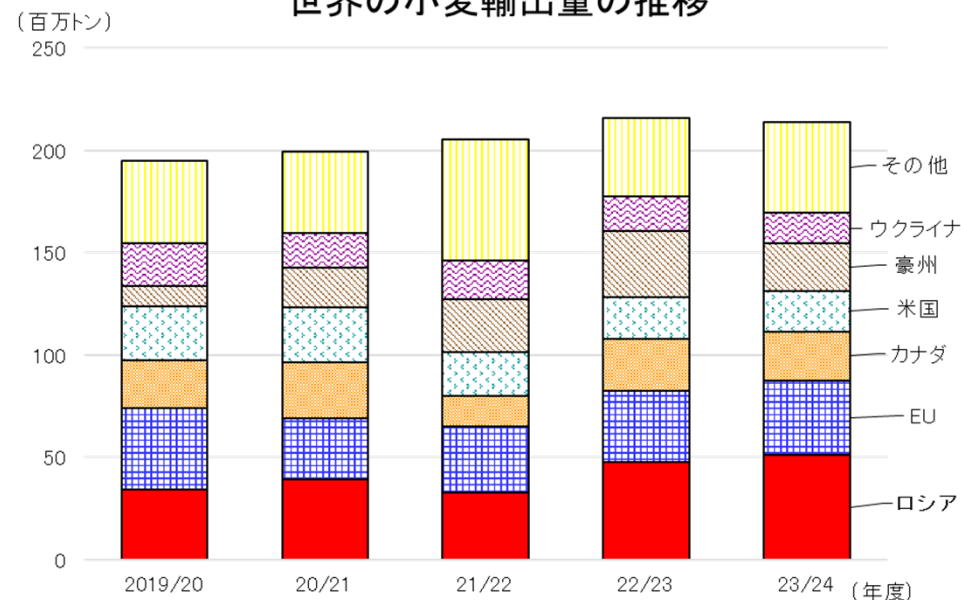


資料: USDA Foreign Agricultural Service 「Grain: World Markets and Trade」

注1: 年度は大麦の市場年度で、9月から翌10月。

注2: 23/24年度は、24年2月に公表された予測値。

世界的小麦輸出量の推移



資料: USDA Foreign Agricultural Service 「Grain: World Markets and Trade」

注1: 年度は小麦の市場年度で、7月から翌6月。

注2: 23/24年度は、24年2月に公表された予測値。

豪州産穀物のマーケティング

- ・今後アジアでは、畜産物の消費見込みや、畜産業の生産性向上余地により、飼料穀物需要は増加の見込み。
- ・大麦と小麦は比較的たんぱく質や繊維質が多い。価格面での優位性があれば、トウモロコシの代替飼料になりうる。

豪州輸出穀物イノベーションセンター (AEGIC)

今後アジアを中心に、畜産物の消費が拡大

東南アジアの畜産業の生産性向上の余地

価格競争力がある場合、大麦や小麦はトウモロコシの代替飼料となりうる

- ・大麦や小麦は、トウモロコシよりたんぱく質が多い。
- ・大麦や小麦は比較的繊維質が多く、消化器官の早期発達により、抗生物質使用料の減少に寄与。

飼料用穀物の栄養成分などの比較

	大麦		小麦		トウモロコシ	
水分 (%)	12		12		13	
たんぱく質 (%)	11		11		8	
脂肪 (%)	2.6		2.3		4	
灰分 (%)	2.2		1.7		1.15	
NDF (中性デタージェント繊維) (%)	16.0		8.5		9	
ADF (酸性デタージェント繊維) (%)	5.5		2.5		2.2	
でん粉および糖分 (%)	53.9		63		64.6	
肥育豚: DE (MJ/kg) (kcal/kg)	13	3,105	14	3,345	14.5	3,465
肉用鶏: ME (MJ/kg) (kcal/kg)	12.56	3,000	13.45	3,215	13.21	3,157
採卵鶏: ME (MJ/kg) (kcal/kg)	13	3,105	13.75	3,285	13.5	3,227
反芻家畜: ME (MJ/kg)	12.8		13.3		13.5	

配合飼料中の最大許含有率

(単位: %)

	大麦	小麦	トウモロコシ
肉用鶏 (育成/仕上げ期)	~30	100	100
採卵鶏	~50	100	100
豚 (仕上げ期)	100	100	100
肉用牛 (仕上げ期)	60~80	60~75	60~85
乳牛	20~35	20~35	35~40

資料: AEGIC

まとめ

- 豪州は北米やロシアなどの主要穀物輸出国の供給と補完関係にあり、特に大麦と小麦は、世界における重要な供給基地。
- 豪州からの穀物輸出は、今後も地の利を生かしたアジアや中東などの需要を主に担っていく。
- 今後の豪州産穀物の輸出動向は、気象状況に大きく左右されるほか、人口増による国内需要の動向、中国の需要動向などにも影響を受ける。
- 日本は、飼料用として米国から主にトウモロコシ、豪州から主に大麦と小麦を輸入。自給飼料の生産拡大を図りつつも、安定的な飼料確保の観点で、豪州をはじめとする世界的な穀物の需給動向に注視が必要。

ご清聴、ありがとうございました。

今回の情報は「畜産の情報」2023年7月号に掲載しています。

※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回、最新の情報を配信しています。

メールマガジンの配信を希望される方は、機構ホームページ (<https://www.alic.go.jp>) の右にある「メールマガジン」ボタンからご登録ください。



【ご注意】

本日の講演内容および資料は情報提供を目的に作成したものです。

主催機関及び講師は、資料作成にはできる限り正確性を期すよう努力しておりますが、保証するものではありません。本情報の採否は各自のご判断で行って下さい。

また、万一不利益を被る事態が生じましても、主催機関および講師は責任を負うことができませんのでご了承下さい。

ぜひ「メールマガジン」の登録を！

機構では、毎月、3つの情報誌（畜産の情報、野菜情報、砂糖類・でん粉情報）を発行しており、メールマガジンにより、情報誌の記事の内容や海外情報の新着情報、alicセミナーの開催などの情報を発信していますので、この機会に、ぜひメールマガジンの登録をお願いします。



👉二次元コード：

ALICホームページのメールマガジン登録画面に入ります。

メールマガジンの登録は、左記のQRコード、もしくは機構ホームページ（<https://www.alic.go.jp>）の最下段から可能です。



メールマガジンの登録はこちらです！

問い合わせ先：

独立行政法人農畜産業振興機構
調査情報部企画情報グループ
03-3583-8678

情報誌のメールマガジンに広告を掲載してみませんか？
セミナーのご案内など貴社のPRに是非ご活用ください！

メールマガジン 広告募集します



「畜産の情報」「野菜情報」「砂糖類・でん粉情報」
の3誌でそれぞれ募集中です！

配信日は、原則毎月10日（砂糖類・でん粉）と25日（畜産、野菜）。
詳細はこちらをご覧ください。

https://www.alic.go.jp/koho/mng01_000275.html



ホームページバナー広告募集します

- 掲載料:10,000円/月(縦60ピクセル、横150ピクセル)
- 申込み期間:随時
- 申込み方法:メールにて受付

申込み方法や期限などの詳細は
[機構ホームページ](#)でご確認ください。



バナー広告掲載イメージ
トップページ右上部のバナー広告コーナーに掲載



広告募集ページ

総ページビュー数
700万件以上！
(2022年度実績)

総セッション数
390万件以上！
(2022年度実績)